

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
第3期中期計画フォローアップ（令和5年度実績）  
【RISTEX】

2024年5月17日

## 1. 令和5年度における活動の概要

### （総括）

客観的根拠に基づく科学技術・イノベーション政策の形成に寄与するため、政策ニーズを踏まえつつ、政策の形成や改善に将来的につながり得る基盤的な成果の創出を目指した研究開発の推進のため、採択中の研究課題についてのマネジメントを実施するとともに、終了プロジェクトの終了評価を行った。

### （1）公募

公募については令和4年度にて終了しており、令和5年度以降は実施していない。

### （2）マネジメント

#### （活動の概要）

採択している研究課題について、ハンズオンマネジメントを通じて、研究開発期間内に創出された科学的知見（エビデンス）が政策に反映されるよう効果的に研究開発を推進した。

（令和5年度中のマネジメント対象プロジェクト数）

16件：R2採択5件、R3採択7件、R4採択4件

プログラム総括による面談実施回数 21回

プログラムアドバイザーによるサイトビジット・打合せ実施回数 17回

（プロジェクト全体のマネジメント事例）

#### ①プロジェクト間連携

複数プロジェクトのシナジー効果による、プログラムとしての研究開発成果の最大化を目指し、「プロジェクト間連携促進イニシアティブ」として複数プロジェクトが連携した活動を募集。希望するプロジェクトに対して、審査の上、追加的な予算措置を講ずる取り組みを推進した。

募集期間：令和5年5月26日（金）～6月20日（火）正午

募集対象：(a)政策プログラム内のプロジェクト（現行/過去）間連携

(b)RISTEX内の他領域・プログラムプロジェクト間連携

(c)SciREX事業内のプログラム連携

予算規模：政策プログラムの現行プロジェクトを対象に1プロジェクト当たり

40万円（直接経費）を上限

募集の結果、以下の3件を実施した。

(a)政策プログラム内のプロジェクト（現行/過去）間連携

・香坂PJ－豊田PJ

：両プロジェクトの対象エリアである中山間地にて、方法論を中心にしたワークショップを実施

・馬場PJ－豊田PJ

：両プロジェクトで取り入れている方法論を対象地域で学び、実践する研究会を開催

(b)RISTEX 内の他領域・プログラム プロジェクト間連携

・乃田PJ－沖PJ（SOLVE）

：「身近な水インフラと流域治水」をテーマとした市民ワークショップの開催

②政策のための科学 研究会

本プログラムの目的である「政策のための科学」、特に政策への成果の実装に関する知見については、学術的な新規性や独自性とは異なるプラクティカルな要素を多分に含むものであり、論文化はもちろん報告書等に掲載されにくいナラティブな形式であることが多くみられることから、プロジェクト間であらためてこうした「政策のための科学」をめぐる様々な知見の共有および交流の促進をはかることを目的として新たに研究会を開始し、過去の研究代表者からの講演と質疑応答を実施した。

第3回

開催日時：令和5年10月24日（月）15:15～16:45

登壇者：牧 兼充 早稲田大学 大学院経営管理研究科 准教授

植松 黎 経済産業省 産業技術環境局研究開発課 課長補佐(企画・先端技術)  
兼) 産業技術プロジェクト推進室 室長補佐(総括)

参加者：プロジェクト関係者、プログラム総括・アドバイザー等 約30名

第4回

開催日時：令和5年12月12日（火）10:00～11:30

登壇者：貝戸 清之 大阪大学大学院工学研究科 准教授

参加者：プロジェクト関係者、プログラム総括・アドバイザー等 約30名

(3) 終了時評価

(活動の概要)

令和5年度中に終了するプロジェクトの終了時評価を実施した。

(実施状況)

5 件の対象プロジェクトについて終了時評価を実施した。評価結果については RISTEX ウェブサイトにて公開予定。

#### 対象プロジェクト

課題名	研究代表者
研究公正推進政策のための電子ラボノート実装ガイドライン作成を通じたガバナンス研究	飯室 聡 国際医療福祉大学未来研究支援センター教授
医療情報化推進に向けた課題解明と 2020 年代における政策基軸の形成	奥村 貴史 北見工業大学工学部 教授
農林業生産と環境保全を両立する政策の推進に向けた合意形成手法の開発と実践	香坂 玲 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
生態系サービスの見える化による住民参加型制度の実現可能性評価と政策形成過程への貢献	乃田 啓吾 東京大学農学生命科学研究科 准教授
シビックテックを目指した気候変動の「自分事化」に基づくオンライン合意形成手法の開発と政策形成プロセスへの実装	馬場 健司 東京都市大学環境学部 教授

#### (4) 広報・成果発信

(活動の概要)

推進中および終了したプロジェクトのうち、特に著しい成果のあったプロジェクトを対象に「POLICY DOOR」における記事作成やメディアの活用等を通じた成果の発信を行った。

(実施状況)

①POLICY DOOR 記事公開数 : 4 件

「合意形成における研究者の寄与」【前編/インタビュー】行政と市民をつなぐ仕組みをつくる

(馬場 健司：東京都市大学環境学部 教授

乃田 啓吾：東京大学農学生命科学研究科 准教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/interview-07-1.html>

「合意形成における研究者の寄与」【後編/対談】合意形成における研究者の寄与

(馬場 健司：東京都市大学環境学部 教授

乃田 啓吾：東京大学農学生命科学研究科 准教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/interview-07-2.html>

「【対談】「実践に基づくエビデンス」の確立を目指して」

(熊 仁美 : 特定非営利活動法人ADD S 共同代表

佐々木 銀河 : 筑波大学 人間系 准教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/interview-08.html>

「【セミナーレポート】コロナ禍における EBPM を振り返る」(仮題)

(仲田 泰祐 : 東京大学 大学院 経済学研究科 准教授 ほか)

公開 URL : 準備中

## ②科学技術白書 コラムでの研究成果掲載

令和 5 年版科学技術・イノベーション白書において、本プログラムより「科学的エビデンスに基づく社会インフラのマネジメント政策形成プロセスの研究」(研究代表者: 貝戸 清之 大阪大学大学院工学研究科 准教授) (令和元年度～令和 4 年度) から、その成果がコラムとして掲載された。

pp.109-110, コラム 9 「データサイエンス技術による劣化予測と科学的エビデンスに基づく政策形成で我が国の社会インフラを守る！」

[https://www.mext.go.jp/content/20230620-mxt\\_kouhou02-000029752\\_9.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230620-mxt_kouhou02-000029752_9.pdf)

## ③公開イベントの開催

- ・第 2 回共進化セミナー「産学連携プロセスの成功要因の類型化と可視化を目指す」

令和 3 年度に共進化枠として採択した坂井プロジェクトでは、「産学連携」をテーマとして、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課と連携して共進化プロジェクトを推進。産学連携に関する文部科学省の重点施策や今後の方向性を確認しながら、坂井プロジェクトの研究成果を共有することで、客観的根拠に基づく産学連携政策形成プロセスへの進化を模索。(申込 252 名/参加 (オンライン) 150 名程度)

[https://www.jst.go.jp/ristex/info/event/20230724\\_01.html](https://www.jst.go.jp/ristex/info/event/20230724_01.html)

- ・オープンセミナー「感染症対策と経済活動に関する統合的分析」

令和 3 年度に採択した仲田プロジェクトの研究報告を起点に、コロナ禍において一貫して課題と位置づけられてきた感染症と経済の統合的分析に関する現在の到達地点を確認するとともに、リアルタイムに科学的知見を生み出し、それを政策決定に活用していくうえで、の課題について議論。(申込 165 名/参加者 (会場) 20 名、(オンライン) 80 名程度)

[https://www.jst.go.jp/ristex/info/event/20240305\\_01.html](https://www.jst.go.jp/ristex/info/event/20240305_01.html)

## (5) その他特記事項

## SciREX センターとの協力

### ① SciREX セミナー

SciREX セミナーにおいて、RISTEX のプロジェクトから話題提供、研究代表者等からの研究報告およびパネルディスカッションを実施した。

#### 第 47 回 SciREX セミナー

「日本の女子生徒の理系進学を阻む要因に迫る 「行きたくても行けない」をなくすために必要な社会風土づくりとは」

開催日時：令和 5 年 12 月 7 日（金）18:30-20:00

開催形態：霞が関ナレッジスクエアにて現地とオンラインとのハイブリッド形式

話題提供：横山広美（東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）  
副機構長・教授）

ファシリテーター：藤原志保 文部科学省の総合教育政策局 教育 DX 推進室長

## 2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

該当なし

## 3. 中期計画の見直しのポイント

該当なし

以上